

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
1	計画全般	川久保委員	市民アンケートの基礎数値が少ないのではないか。施策に反映するにはもっと配布数を増やして有効回答数を増やすべきではないか。	市内20歳以上の約3万4,000人から無作為抽出し、回答率を見込んで2,000人にアンケートを送付しています。母集団が1,000人以上の場合は400人程度の回答を得ることで必要なデータを得ることができるという見解もあることから、今のところ配布数を増やすことは考えていませんが、より回答率を上げるための工夫をしていきます。		
2	計画全般	木下副会長	前期の課題・問題点がなかったか。	施策ごとに現状と課題を明記しております。		
3	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	村岡委員	聖火リレーコースを歩いて見て回った際に、雑草が多かった。率先して自分たちで草むしりをする地域もあるようだが、ボランティアと連携するなど、雑草の除去をどのように進めていくか。	環境美化推進事業として、現在も小城駅前広場についてはボランティア活動を実施されている団体もごございます。今後は更にボランティア活動への参加を周知していきます。		
4	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	楠田委員	芦刈地区の都市再生整備計画が平成21年に策定されている。その中で、沿岸道路のインター近くは商業施設にというような計画案がある。芦刈地区は今年過疎地域に指定されているが、物販店は1つしかない。開発するには計画に沿った誘導が当然必要だが、現実的にいろんな企業が進出しようとしても農振除外などで進まない。芦刈地区の都市計画についてどう考えているのか。	平成19年度から平成23年度にかけて、旧芦刈庁舎周辺を中心に都市機能が集積した活力あるまちづくりなどを目標とした「都市再生整備計画」に沿って、にぎわいある拠点づくりとして「あしばる」等の整備を行いました。 今後は、小城市まちづくりの上位計画であります「小城市都市計画マスタープラン」の中での「地域別構想」や「小城市立地適正化計画」において、今後の芦刈地区の生活拠点を効率かつ適正な都市づくりとして誘導していきます。		
5	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	楠田委員	小城市が合併して、芦刈だけ取り残されているというのを聞く。地元の働きかけで企業やお店を誘致しようとしても、市としては農業優先で許可ができないという感じがある。窓口で相談に行っても、農業地域だからと言われる。しかし、芦刈は農業だけで成り立っているわけでもなく、沿岸道路ができ、国道444号線も賑わいが出てきているのに、農業主体でいいのかという疑問がある。	小城市は芦刈地区を含め農業用地に恵まれており、農業の振興についても重要な施策だと考えております。一方で芦刈地区は、有明海沿岸道路の開通に伴い物流利便性の向上など民間活力の参入への可能性が高く、今後地域の発展に繋がる要素も多く、農業のみならず、産業拠点として企業の参入も含め適正なまちづくりへと誘導していきます。		
6	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	木下副会長	芦刈町の過疎指定で、国からの予算がついて、開発などできるようになるのではないのか。	過疎指定により国・県・市による活用自由な財源が確保されているわけではございません。令和3年4月1日付で芦刈町が過疎指定されたことに伴い、小城市過疎地域持続的発展計画を策定することで計画に記載されている事業については、有利な起債である過疎対策事業債を活用することができます。		
7	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	楠田委員	今後過疎のための振興策として予算がつくと思うが、これまでの流れからすると、行政主導で箱ものを造るのに予算がつく。しかし、基本的にまちが発展していくには、そのような箱ものよりも、そういう仕組みを作る必要がある。	小城市過疎地域持続的発展計画を実施していくにあたり、ハード事業だけではなくソフト事業も含めて活性化に繋がる事業について有効かつ効率的に進めていきます。		
8	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	吉岡会長	旧4町の間の公平感みたいなものというのは、前期計画をつくるときも少し話題になった。都市計画が策定される中で、地区間の公平というようなところをぜひ改めて確認いただきたい。	小城市まちづくりの上位計画である「小城市都市計画マスタープラン」の中で「地域別構想」を作成し、その「地域別構想」で地域ごとの課題や目標を立て、まちづくりを進めていきます。		
9	1-1計画的な土地利用の推進と効率的な都市づくり	木下副会長	自然環境や交通の便など条件が整ったところに人は住む。施設の配置・充実を図ってほしい。	「小城市都市計画マスタープラン」及び「立地適正化計画」では小城市が目指す将来都市像の方針等を定め、コンパクトなまちづくりと、公共交通ネットワークの構築をしていきます。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
10	1-2快適な生活環境の保全と循環型社会の形成	吉田委員	住宅街の近くの道路やイベントが行われる街路などに雑草が茂っているのを見ることがある。住宅のそばやみんなが利用する土地を行政やボランティアに任せのではなく、自治会など地域で地球を守り、環境を良くしていく努力が必要ではないか。	身近な生活環境の保全に向けて、地域の自主的な活動を推進していきます。		
11	1-2快適な生活環境の保全と循環型社会の形成	徳丸委員	少子化・高齢化で小城市に土地を所有していても、管理者・相続者が他の地域にいるケースが多くなっている。そのような実情も踏まえた計画になっているのか。	空家、空き地については、所有者が市外に居住していることが多く、所有者を調査し、改善を促していきます。		
12	1-4下水処理の充実	村岡委員	中心市街地は商店や小売店舗が多い。小城市は、佐賀県内では小売店の比率が高い。ある事例では、カフェを造ろうとすると、浄化槽の整備が高額で出店できなかったという話があった。下水道の整備は集中的に下から順にされていると思うが、順番を切り替えながら進めることはできないのか。	現在、区域の見直しを行っており、下水道整備区域と市営浄化槽区域を適正に設定することで、効率的に事業を進めていきます。		
13	2-1道路の保全と交通網の充実	中島委員	JRの本数が非常に少なく、通勤・通学の時間帯は非常に混み合う。若い人や高齢者など交通の不便さについて困っている状況を吸い上げて利便性を良くしてほしい。	JRの増便については唐津線利活用電化促進期成会として増便を要望しておりますが、現状利用者が減少しています。小城市としては引き続き交通事業者へ増便の要望を行っていきます。		
14	2-1道路の保全と交通網の充実	中島委員	車がとて多くなり、主要道路が混み合っていて、交通の出入りなどで事故につながるのではないかと心配している。	幹線道路の渋滞緩和については、管理者である国・県と連携を図り、道路整備や安全確保に努めていきます。併せて接道としての市道についても適正な計画に沿った整備や安全確保に努めます。		
15	2-1道路の保全と交通網の充実	村岡委員	車は多いが、事故は減っているため、交通安全に注力するのはもったいない。むしろ、JR唐津線の増便にしっかり投資すべき状況にある。	JRの増便については関係団体や唐津線利活用電化促進期成会などに増便を要望しておりますが、現状利用者が減少しています。小城市としては引き続き交通事業者へ増便の要望を行っていきます。		
16	2-1道路の保全と交通網の充実	村岡委員	スマートインターができてから県外車が増えているが、標識は変わっていないため、迷って小さい道に入る車が相当増えた。また、信号待ちで途中から脇道に入る車も相当出てくる。サインをしっかり交通標識プラスアルファでやらないと、交通事故がまた増えてくるのではないか。	引き続き、道路管理者である国・県と連携を図り、道路整備や安全確保に努めていきます。 交通規制に関しましては、必要に応じて警察と協議させていただきます。		
17	2-1道路の保全と交通網の充実	楠田委員	「目的地まで行きやすいと思う市民の割合」について、前期計画では選択肢「1.行きやすい」のみとしていたものを後期計画で「2.どちらかといえば行きやすい」を加えるというのは、意図的に満足度を上げているとしか捉えられない。満足度が低いのに、施策を打って満足度を上げるという努力がどこかで失われていく気がする。数値の取り方は統一した方がいいのではないか。	後期計画の【生活環境の満足度】において「日常生活に利用する生活道路の整備」は満足度が高く、一方で「公共交通の充実」については満足度が低いことの結果の整合性を考慮し、選択肢の捉え方を統一し「1.行きやすい」のみから「2.どちらかといえば行きやすい」を加え、過去の実績値及び今後の目標値・成り行き値の指標も市民ニーズの動向を反映させ変更しています。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
18	2-1道路の保全と交通網の充実・2-2交通安全対策の充実	川久保委員	総合計画の検証・評価をするのに、指標を変更すると評価が違った形で現れてくるのではないかと。指標の取り方は変更しないほうが、9年間にわたってどれだけ推移するかというのを評価しやすいと思う。どうして変更したのか教えていただきたい。	後期計画の【生活環境の満足度】において「日常生活に利用する生活道路の整備」は満足度が高く、一方で「公共交通の充実」については満足度が低いことの結果の整合性を考慮し、選択肢の捉え方を統一し「1.行きやすい」のみから「2.どちらかといえば行きやすい」を加え、過去の実績値及び今後の目標値・成り行き値の指標も市民ニーズの動向を反映させ変更しています。		
19	2-2交通安全対策の充実	吉岡会長	「人口1万人当たりの交通事故死者数」について、前期の「死傷者数」を後期で「死者数」に変更されているが、近年は車の性能向上などにより、死亡件数は減ってきているため、「死傷者数」を基準にするほうがいいのではないかと。	交通事故はかなり減ってきている。車の安全対策も進んでおり、死者数もかなり減ってきているが、やはり命を守ることが一番大事。交通事故は確かに減っていても死傷者はゼロにするのはなかなか難しい、悲惨な交通事故の中でも死者は絶対出してはならないということで、今回「死者数」を目標に設定した。ただし、「死傷者数」については、参考値として状況把握に努めています。		
20	2-2交通安全対策の充実	吉岡会長	令和2年度はコロナで外出が外出が減ったりして事故が減っているというふうに言われているので、昨年の実績を基準値にしているのか。	令和7年度の目標値については、平成29年度から令和3年度までの前期期間中の実績を踏まえて、また、コロナの影響が今後どれだけ長引くのか、影響しているのか分からないところもあるが、それも踏まえた上での最終目標ということで設定しています。		
21	2-2交通安全対策の充実	吉岡会長	通学路の安全確保についてどのような施策があるか。	千葉で悲惨な交通事故があり、小城市としても、その後通学路の点検なども実施をしました。毎年、建設課、教育委員会、警察関係、道路管理者と通学路の点検を実施をしており、その中で改善すべき点は改善すべきと考えています。		
22	2-2交通安全対策の充実	吉田幸子委員	信号がない場所での横断について、手を挙げての横断を警察も今後指導していくということなので、ぜひ徹底してほしい。	手挙げ横断については、効果的な取り組みとして、小城市としても推進していきます。		
23	3-2歴史・文化の継承と文化財の保存	村岡委員	歴史文化については展示会その他チャレンジをさせていただいているが、文化財について市民の方はあまり知らない。歴史や文化の振興は受け手の問題もあるが、文化財を守っている人たちについて、季刊誌という形で定期的に周知したり、座談会などを行ってはどうか。そのような記録を残せば市史の基にもなる。	小城市に関する資料を収集し、調査研究の成果を「調査研究報告書」として毎年刊行しています。埋蔵文化財調査報告書も随時刊行しています。地域に出向いて聞き取り調査などを必要に応じて行っています。		
24	3-2歴史・文化の継承と文化財の保存	圓城寺委員	施策4-2の指標「文化人財バンクの派遣件数」では令和7年度に400件まで増やす目標ということだが、3-2の指標「歴史・文化活動に取り組んでいる市民の割合」の令和7年度目標値が減っているのはなぜか。文化人財バンクは文化連盟を主体にしている事業と聞いたが、どのような関係があるのか。	「歴史・文化活動に取り組んでいる割合」は、コロナの影響もあり、活動中止などにより減少したので、目標値を実績に合わせて設定しました。歴史・文化活動は主に伝統的な活動を想定しており、文化人財バンクの活動と重ならない部分もあると思われます。		
25	3-2歴史・文化の継承と文化財の保存	圓城寺委員	市民活動センターで学生が自学をするに当たって、調べ物をするのに毎月郷土史研究会から資料を取り寄せている。ネットで調べればいいこともあるが、紙媒体を手元に置いてパソコンに入力して作業する人もいます。	刊行物で必要なものがあれば、提供させていただきたいと思います。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
26	3-2歴史・文化の継承と文化財の保存	圓城寺委員	今は日舞と言ってもそれが何か分からない子どもたくさんもいる。教え手の高齢化もあると思うが、伝統芸能全般で継承していく団体の支援は具体的にどのようにされているか。	伝統芸能団体等への補助金の交付を行うとともに、市報やホームページにより活動を紹介することで、構成員の増加などにつながればと考えています。		
27	3-2歴史・文化の継承と文化財の保存、8-1多様な文化の理解と様々な交流の推進	村岡委員	市民アンケート「生活環境の満足度」で「文化的施設の充実」というのがあるが、文化施設がいささか弱い。小城市は自然と歴史環境がかなり優れていて、都市間交流の歴史もすごいものがある。千葉を中心とした中世の文化施設が必要ではないか。小城市の文化歴史を小城市で見れない状況である。	小城市立歴史資料館常設展示にて常時千葉氏の紹介を行っており、新たな情報を盛り込んだ展示を企画展示室などで随時行います。屋根のない博物館構想にもとづき、史跡の紹介を行っていきます。		
28	4-1健康づくりと保健・医療の充実	吉岡会長	前期計画の中では、「一次医療、二次医療の充実」という表現が掲載されていたが、後期計画ではなくなっている。もちろん病院の統合自体は重要だと思うが、それと併せて身近な近所の病院の充実も引き続き重要ではないか。	後期計画での一次医療、二次医療の充実については、市内の診療所からの紹介を受け、公立病院として二次医療機関の機能をしっかりと果たすことで、一次医療機関としても市民に安心した医療体制を提供するというような「市内外の医療機関の連携」で取り組む形をとっています。		
29	4-1健康づくりと保健・医療の充実	中島委員	小城市民病院と多久市立病院が統合して東多久市に移転すると、名称も変わり、公立病院がなくなるような感じがして市民は心配ではないのか。小城市の人も市民病院として活用できる形になるのか。公立病院は、災害やコロナなどの支援体制である一定の役割を担うところが大きい。小城市内で近くて安心な医療体制はすごく重要と思っている。東多久に移動することで、病院機能が低下しないか、医療従事者としては心配なところである。県内は中規模200床前後の病院が点在しており、そういう病院としっかりと連携してぜひ新体制をつくっていただきたい。	病院の統合は、効率化を図りながら診療機能の維持、向上させるために行っています。今後も引き続き他の病院との連携も取りながら、小城市の皆様が安心して利用できる新病院を作り上げていきます。		
30	4-1健康づくりと保健・医療の充実・4-2生涯学習・生涯スポーツの充実	村岡委員	ゆめぶらっと小城中での健康教室は一頃集まりがよくないと聞いた。できれば食育や心の医療の徳育というような予防医学を取り入れてはどうか。また、伝統行事、お祭り等にもぎやかなものにして、各世代をつないでいくことができると、この地域はまだまだ力が出せるし、健康づくりにもつながっていくのではないかと。社会教育という部分でまだ可能性は大きい。健康づくりにもつながるような、生涯学習的なものを展開していただければありがたい。	健康づくりや疾病予防に関しては、保健福祉センターを中心に様々な団体と連携し実施しています。健康づくりに繋がる生涯学習としての様々な講座等も実施しています。今後も引き続き周知を徹底し、事業を行っていきます。		
31	4-2生涯学習・生涯スポーツの充実	村岡委員	文化人財バンクの派遣件数は、平成27年度に246件、令和2年度に47件の実績に対し、令和7年の目標は400件と、かなり数値が大きく違っているが、実際に文化人財バンクというのは大体何人ぐらいいて、どういう形で活動されているのか。どういう形で派遣して、どういう形で生涯学習につながっているのか。	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教室、講座等が中止となり、実施回数は少なくなっています。書道、陶芸、民謡、といった様々な分野で登録されており、例えば、民謡は中学校での授業、茶道は保育園等での茶道の授業や小学校でのクラブ活動への訪問といった形で活動されています。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
32	4-2生涯学習・生涯スポーツの充実	圓城寺委員	文化連盟の方が高齢化されていて、継続が困難な団体もたくさんある中で、令和7年度に400件も派遣できるのか。	平成27年度は246件から300件に、平成30年度には336件と、活動は右肩上がりになっています。令和元年度の後半から令和2年度にかけては新型コロナウイルス感染症により急激に数字が落ち込んでいますが、過去の実績を見れば、400件の目標を到達したいということで設定しています。		
33	4-2生涯学習・生涯スポーツの充実	圓城寺委員	市民活動の団体に登録されている方に福祉施設などを紹介して訪問させてもらっている。生涯学習と市民団体の連携というのを何か考えていけないか。生きがいづくりの推進、自主的な取組の推進というところで何か加えることはできないか。	基本事業に掲げているとおり、生涯学習で学んだ成果を生かすため、指導者やボランティアと様々な分野において連携した活動を推進しています。		
34	4-2生涯学習・生涯スポーツの充実	圓城寺委員	社会体育においての子どもへの指導の在り方というのをどのようにされているか。社会体育の中での指導者の言葉のかけ方など、もう少し気をつけていただきたいという保護者からの意見があった。それを相談するとすれば生涯学習課と思うが、最低限の言葉のかけ方や指導のやり方を周知していただきたい。	社会体育の指導者には講習会を行っており、その中で指導者に対しての周知を行っていきたくと考えています。		
35	4-2生涯学習・生涯スポーツの充実	中島委員	「保健福祉センター等の拠点として」とあるが、意外と若者でもスポーツをする場所が限られているように感じている。そういうハード面の過不足の満足度についての市民の声はないか。	市民アンケートの生活環境の満足度では、スポーツ施設の整備に関しては、満足しているという結果となっており、今のところ施設の不足についてのご意見は把握しておりませんが、引き続き学校施設を含め、スポーツ施設の有効活用にも努めていきます。		
36	5-1地域福祉の充実	中島委員	地域福祉のところ「関係機関」との連携という言葉がたくさん出てきているが、今、小城市の中で、西九州大学だけではなくて教育機関や教員、学生のボランティアや高校生ともいろいろ協力されていると感じるので、そういう教育機関との連携も活用するということをイメージできるような感じに盛り込めないか。難しければ、そういう意識を持っていただくと、若者が福祉のことに意識して協力しているということが出てくればいい。SDGsの表現を書いているのも、小城市がこれを推進しているというのが明確に分かるような形で出ているのもすごくいいと感じた。	教育機関も関係機関に含まれていると考えており、「教育機関」に限定して表現を追記することはしませんが、引き続き連携していきます。		
37	5-2高齢者福祉・介護の充実	吉田幸子委員	住民による有償ボランティアについて、現在支えあいセンターというのが立ち上がっていて、最初は、買い物支援、ゴミ出し支援が主だったが、その後には付き添い支援というのがプラスしてボランティアでやっている。ボランティア・利用者とも多いかと思ったが、実態はそこまで行っていない。ボランティアの人数も少ないが、付き添い支援には車が必ず必要で、その車に対する車両保険のお金をどこから出すか。小城市全体で1週間に1回、月に4回利用できるという実態だが、それ以上利用できるようになるのか。	付き添い支援の本格運用が今年4月から始まり、利用希望登録は現在40人程度、実際の利用が月に7、8人という状況です。付き添い支援のニーズは高いので、利用回数を増やしていきたいが、車両保険等の財源の課題もあります。現在、課題解決に向けて、市民と協働して検討しています。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
38	5-2高齢者福祉・介護の充実	中島委員	小城市は比較的認知症の支援や支えあいの総合支援事業はすくなく充実しているが、現状と課題の中に、高齢者の増加とか認知症高齢者の増加により多様なサービスを創設するところで、認知症のところに特化してアピールがないように感じる。目に触れるような形でないと、高齢者自体、家族の安心というのが得られないのではないか。もう少し見える形で表現していただきたい。「多様なサービス」とはどういった内容があるのか。	総合計画では全体像ということで表現しており、具体的には個別計画で介護保険の計画と高齢者福祉計画を立てています。詳細な事業や取り組みについては、市報やHPで紹介しています。多様なサービスについては、介護保険で使うサービス以外に小城市が独自で実施している短期間での通所リハビリサービスや、認知症施策では認知症サロン、認知症カフェなどがあります。		
39	5-2高齢者福祉・介護の充実、10-1防災・減災体制の充実	吉田幸子委員	防災とも関連するが、高齢者らの逃げ遅れ防止ということについて、市役所として、高齢障がい支援課として何か動き始めているのか。	基本的には自助にはなるが、避難行動要支援者登録制度があり、登録を促すために、独りで避難することが難しい介護保険の認定がある方や一人暮らしの高齢者等を対象に登録案内通知を出しています。引き続き登録者を増やす取り組みを進めていきます。		
40	5-2高齢者福祉・介護の充実、10-1防災・減災体制の充実	吉田幸子委員	避難行動要支援者というのはとても限られている。台風などの場合はある程度の避難ということを考えられるが、地震など災害というのは突然にやってくる場合もある。民生委員は、自治会では2地区、3地区に1人しかおらず、地区内でお互いに班単位でもいいから、助け合いの形をつくっていただきたい。民生委員だけの力は限られていて、みんなの助けが必要。市役所にも助けていただきたいが、地域での助け合い、もっとその絆を深めていく必要があるのではないか。	区長や民生委員など、地区の皆さんが協力し合う組織（自主防災組織等）への支援を行っていきます。		
41	5-4じんけん尊重社会の確立	圓城寺委員	新たなハラスメントということで、ワクチンを受けたかどうかを聞かれて、打てなかったり打たない選択をした人がすごくストレスに感じたり、差別と感じている方が実際いらっしゃるというのを最近よく聞く。小城市の方もワクチンを推進する方向で動いているかと思うが、人権の面でそういう相談があった場合は、啓発活動をしてはどうか。逆に、今度はワクチンを打っていないと受け入れないという民間の施設もある。	直接、人権・同和対策室にワクチン差別についての相談はありませんが、県も市も問題意識を持って、ホームページやチラシなどで啓発活動を行っています。新たなハラスメントなどを含めた人権問題の相談については、人権問題にかかわる担当課と連携した対応、また、人権擁護委員が毎週火曜日の第1週は小城、第2週は三日月、第3週は牛津、第4週は芦刈で行政相談と併せて行っています。（現在、コロナ禍のため対面相談は自粛し法務局等へ案内）		
42	5-5男女共同参画の推進	楠田委員	成果に対する主な指標で、「反対する市民の割合」という表記がされているが、これはいわゆる価値観の問題であって、表現を少し変えたほうがいいのではないかと。ほかの項目ではそういう反対とか賛成という表現はないので、違和感を覚える。	国・佐賀県、全国の多くの自治体の男女共同参画基本計画では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」を例とする「固定的性別役割分担意識」に関する指標を用いており、小城市男女共同参画プランでも指標としています。「賛成」または「反対」どちらの割合を目標値とするかは各自自治体で様々ですが、小城市では、男女共同参画プランの策定に際し審議会でも、「賛成」する市民の割合とした場合、指標の数値が右下がりになるので、「反対」する市民の割合とした方がいいとの意見を受け、「反対」する市民の割合を上げることを目標としています。用語解説を補足して分かり易い表現とします。	夫は外で働き、妻は家庭を守るべき…人々の意識の中に長い時間をかけて形づくられてきた性別に基づく「固定的性別役割分担意識」を表す指標として、全国的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきかどうか」という考え方についての設問が多く使用されている。	用語解説の追記 夫は外で働き、妻は家庭を守るべき…人々の意識の中に長い時間をかけて形づくられてきた性別に基づく「固定的性別役割分担意識」を表す指標として、全国的に「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきかどうか」という考え方についての設問が多く使用されている。 <u>反対する市民の割合が多くなることで成果の向上につながる。</u>

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
43	5-5男女共同参画の推進	中島委員	最後の指標の文言で「反対する」のパーセントが高くなっている、よく読むと理解するが、誤解を生みやすいと感じる。例えば、「性差別をしない考え方に賛成する市民の割合」とか、性別によって役割を固定しない、性差別をしない考え方に賛成するパーセントが高くなるというところには合致するように感じる。	42と同じ	42と同じ	42と同じ
44	5-5男女共同参画の推進	吉岡会長	指標としては分かりやすさを優先して、例えば、「性差別をしない市民の割合」というふうに指標自体は表記しておいて、下に解説として具体的に何を基にしてそれをはかるかというところで具体的な説明をするというのがもし可能であれば、表に出てくる指標のほうは確かに分かりやすくできるかもしれない。技術的に可能かどうか検討していただきたい。	42と同じ	42と同じ	42と同じ
45	5-5男女共同参画の推進	圓城寺委員	今年度から制服に女子のパンツルックを採用している高校が結構増えてきて、それを見た小学生が、自分が中学生になったときにやはりパンツで行きたいという子どももいるというのを結構聞く。こういう相談をどこにしたらいいの、学校教育の推進にもつながる話だが、そういう地域とか家庭とか学校にそういう相談をする場所があったらいい。	市内の中学校において、すでに選択制の制服に変更するという学校があります。また、他の学校においても制服の変更を検討しています。相談場所は直接学校の先生へ相談するか、中学校に進学した際には、「生徒会の意見箱」等を利用して相談することができます。		
46	6-1子育て支援の充実	船津委員	子育てをしているお母さんや妊娠中の方はこのコロナ禍で、マスクもできない、予防注射もできない中で、妊娠中どこへも出かけられない、先が見えない中で本当に日々大変で、心に寄り添うというところでママたちとも連絡を取ったりしている。妊娠、出産、切れ目ない支援ということだが、産後のケアは、小城市はまだホームスタートもしていない。待つのではなくて訪問、こちらからアプローチしていくような支援が本当に必要だと思っている。最終目標の「安心して子どもを産むことができるまちと思う市民の割合」が2%下方修正されたのは本当につらい。ここを下げなければならないのか。日々子どもたちと関わってママたちと接する中で支援がまだまだ行き届いていない、何が足りないのか、どうしたらいいのかと、この資料を見て思った。一人一人が自分でできることを考えていく支援をどう広げていくか。新しい病院には産婦人科を検討されるということだが、小城市は今のところ市内に産婦人科がなく、市内で出産ができない。産後ケアの支援として具体的にはどんな施策があるのか。	コロナ禍における出生率は全国的に減少傾向にあり、こうした社会的情勢の中、産科の医療機関が市内になく、子育てに弊害も出てきていることから出生が減少すると見込み2%下方修正しています。今後は、「子育て世代包括支援センター」において相談体制を強化し、妊産婦の不安解消に努めていきます。具体的な産後ケアの支援として、訪問活動を重点的に取り組みながら、ショートステイなどについては整備が必要であるため、広域的な取り組みや民間団体との連携を検討していきます。妊娠・出産期から子育て期にわたる支援の推進の具体的な取り組みとして、「子育て世代包括支援センター」について追記します。	基本事業③妊娠・出産期から子育て期に渡る支援の推進 妊娠・出産期から子育て期にわたるまで、関係機関と連携を行い、切れ目ない総合的な相談支援体制の充実を図ります。 *1 子育て世代包括支援センター…妊産婦や乳幼児の実情を把握し、妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、必要に応じて支援プランの策定や、地域の保健医療又は福祉に関する機関との連絡調整を行い、母子保健施策と子育て支援施策との一体的な提供を通じて、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供する。	基本事業③妊娠・出産期から子育て期に渡る支援の推進 妊娠・出産期から子育て期にわたるまで、関係機関と連携し、切れ目ない総合的な相談支援体制の充実を図ります。

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
47	6-1子育て支援の充実	中島委員	子育て支援は非常に求められていて、昨年8月に母子保健法の一部改正があり、産後ケアは市町村の努力義務とされているので、ぜひ充実させていただきたい。出生率が下がっている、これを上げないことには、小城市の人口増加も支えられない。西九州大学でも助産師の育成及びそういう産後ケアのところをぜひ協力はさせていただきたい。センターも何かイメージできないと市民の方も使いづらいのではないかと。前に見えるような形というのが非常に重要。また、いろんな形で子育て支援を充実させていただきたいので、関係機関との連携のところに西九州大学をぜひ入れていただければ協力したい。	関係機関には教育団体も含んでいると考えており、市の計画と合致する部分は西九州大学にも協力をお願いしたいと考えています。引き続き様々な団体と連携しながら取り組んでいきます。 産後ケアについては、訪問活動を重点的に取り組みながら、ショートステイなどについては整備が必要であるため、広域的な取り組みや民間団体との連携を検討していきます。 妊娠・出産期から子育て期にわたる支援の推進の具体的な取り組みとして、「子育て世代包括支援センター」について追記します。	基本事業③妊娠・出産期から子育て期に渡る支援の推進 妊娠・出産期から子育て期にわたるまで、関係機関と連携し、切れ目のない総合的な相談支援体制の充実を図ります。	基本事業③妊娠・出産期から子育て期に渡る支援の推進 妊娠・出産期から子育て期にわたるまで、関係機関と連携し、切れ目のない総合的な相談支援体制の充実を図ります。 * ¹ 子育て世代包括支援センター…妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、必要に応じて支援プランの策定や、地域の保健医療又は福祉に関する機関との連絡調整を行い、母子保健施策と子育て支援施策との一体的な提供を通じて、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供する。
48	6-2学校教育の充実	圓城寺委員	オンライン授業を計画的に整備を行うということを掲げているが、去年の時点で1年後は家で授業が受けられると思っていた。災害とか感染症でこういう緊急事態になった時のためにも、迅速に、もう少し早く何か動きがあればいい。今年は急な休校で何もなし、宿題だけしか出ていない状況で、子どもたちは家で過ごしている。また不登校の子どもたちもタブレットで授業を受けられないかという意見もよく聞く。何か施策のほうを考えてもらいたい。	今年の10月から小学校6年生と中学校3年生を対象に学校と家庭を繋ぐオンライン授業の試験的運用を進めています。また、Wi-Fi環境がない家庭に対しては、モバイルルーターの貸出も行っています。今後は、新型コロナウイルス感染症による長期の臨時休校や不登校児童生徒も視野に入れています。		
49	6-2学校教育の充実	吉岡会長	数年前に教育機会を多様化して増加させるという法律も制定されているので、不登校の支援についてもまた別途に支援していただきたい。	不登校児童生徒については、子ども支援センター事業、学校生活支援事業等により、学級への復帰を目指し支援していきます。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
50	6-3青少年の健全育成	村岡委員	「地域との関わりの中で子どもたちが心身ともに健やかにたくましく成長していると思う市民の割合」の最終目標が26%で、4人に1人たくましくなければいいとなっている。また、市民アンケートの「日常生活で暮らしにくいと感じるところ」の4番目に「地域の行事や近所付き合いが面倒」というのが18%あるので、大体5人に1人はあまり思わしくない結果が出ている。よそから移住してくる方にはやはり抵抗があるという部分と、リーダー的な人たちが以前と同じようにやろうとしてもなかなか協力が得られないということで、伝統行事やお付き合いも難しい。社会教育的にサポートしないと、地域力がどんどん落ちて、地域行事などが消えていって、もうほとんどお付き合いもなくなって、こういう自然災害とかコロナとかが出てきたときに、本当に困るというようなことになるのではないかと最近非常に感じる。この数字は最終目標としては再検討していただくことができないか。	生活環境の多様化に伴って、地域との繋がりがますます希薄化していくと考えます。その中で、学校と地域が連携した取り組みや、青少年健全育成市民会議の事業、各支館で行っている子どもたちの体験学習をおとして、現状の数値を目標としたいと考えています。		
51	6-3青少年の健全育成	吉岡会長	5年前、前期計画の審議の際にも、「たくましい」という言葉をどう捉えるかを議論した。個々人の価値観によるところがあり、またしなやかにある若い人たちがちょっと増えているように個人的に思うので、何かそういうものも含めて地域のつながりも維持して、衰退するといけないので、何か地域の連帯、連携も維持していく必要がある。	「心身ともに健やかにたくましく成長する」とは、自分で考え判断し、行動できるようになることを目指しており、そのために地域と連携して、今後も子どもたちの体験活動を行っていきます。		
52	7-1農業の振興と森林の保全	木下副会長	三里では有名な牛尾梅林があるが、耕作者の高齢化で後継者がおらず、今後耕作放棄地が増えないように森林組合の助成があると聞いたが、どのような内容か。	引き続き新規就農者への支援や耕作放棄地の解消に向けて取り組みを行っていきます。		
53	7-1農業の振興と森林の保全・7-2水産業の振興	中村委員 川久保委員	7-1「農業世帯の平均農業収入額」と7-2「1漁家当たりの漁業出荷額」で、金額的に大きく差があるのはなぜか。同じ基準で記載できないのか。	農業については農業収入として確定申告された金額を農家数で割ったもの、漁業については漁協芦刈支所が把握している漁業出荷額を漁家数で割ったものを平均として実績に上げており、考え方としては同じと認識して構いません。		
54	7-1農業の振興と森林の保全・7-2水産業の振興	吉岡会長	7-1「農業世帯の平均農業収入額」と7-2「1漁家当たりの漁業出荷額」のどちらも令和2年度の目標未達成だが、令和7年度の最終目標値がかなり高くなっている。達成可能なのか。	令和2年度の実績は、農業・水産業ともにコロナの影響でどうしても落ち込んでいますが、これまでの実績が農業も水産業も若干右肩上がりの流れであることから最終目標値を想定しています。		
55	7-3商工業の振興	村岡委員	小城市には名水があるという非常に大きな強みを生かして、食品の専門的な学校が必要ではないか。	市内には、名水の他、商品開発につながる地域の資源があり強みがあると認識しております。学校の必要性というよりは、学校教育や成人教育により、地域の資源の認識を深め、それぞれが地元商工業に生かせるようPRも含め努力してまいります。		
56	7-3商工業の振興	吉岡会長	地域の食への認識を深めていく点で、学校教育ともつながってできるというのではないか。	学校教育との連携については、地域の資源に関する認識を深められるよう庁内連携を行い、名水を含めた地域の資源の定着を図ってまいります。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
57	7-3商工業の振興	中島委員	いろいろな産業のところにアルバイトに行けるような窓口などがあればいい。	求人に関する情報は、現在、市を含め商工関係団体は保有しておらず、窓口機能はありません。また、小城市を特定した求人情報開示はなされていないようです。このようなことから、市に送付されている求人情報を必要な方へ提供することにより、地道ですが満足度向上に繋げていきたいと思えます。		
58	8-1多様な文化の理解と様々な交流の推進	村岡委員	「交流活動に取り組んだ市民の割合」の令和7年度最終目標値が平成27年度よりも減っている。従前よりは増えるように、控えめにならず、もう少しスイッチを入れて取り組んでほしい。	新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等が中止になっており交流活動が行えていない状況で、「交流活動に取り組んだ市民の割合」は、H31.4月アンケートの47.9%から、R2.9月アンケートでは38.2%、R3.4月アンケートでは36.4%と低い数値となっている。今後しばらくはコロナ禍が続くことが予想されることからR7最終目標は、コロナ禍前に戻すということで46.5%(H30実績46.5%)としている。Withコロナ、Afterコロナを見据え新しい生活様式での交流活動のあり方を考えていく必要があると認識しております。		
59	8-1多様な文化の理解と様々な交流の推進	吉岡会長	「関係人口」という考え方が新たに入っているが、関係人口を増やす具体策は考えられているのか？	「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と関わる人々の事で、例えば、ふるさと寄附金の寄附者やまちづくりに関わる市外在住者などを言います。「関係人口」の創出は、人口減少、少子高齢化が進み地域の活力低下が懸念されている中で、地域外の人材が地域づくりの担い手となることが近年期待されていますので、「関係人口」の視点を持ち、「持続可能なまちづくり」に取り組んでいく必要があります。		
60	8-2協働によるまちづくりの推進	中島委員	「まちづくり活動に参加している市民の割合」の令和7年度最終目標を大幅に下げている理由は何か。	新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な活動が制限されている状況で、「まちづくり活動に参加している市民の割合」は、H31.4月アンケートの37.9%から、R2.9月アンケートでは30.2%、R3.4月アンケートでは26.3%と低い数値となっています。今後しばらくはコロナ禍が続くことが予想されることからR7最終目標は、コロナ禍前に戻すということで36.5%(H30実績36.4%)としています。		
61	8-2協働によるまちづくりの推進	村岡委員	小城市が応援してできたフットバスクラブは、イギリスの街歩きを取り入れて、歴史と自然と使った形で交流ができる。5・6年前に千葉城周辺、次に三里でコースができ、今後は晴田でコース検討中だが、最初のコースは水害などで途中通れなくなっている。ボランティアなどの人材育成や、まちづくりに参加する仕掛けを作っただけであれば、まちづくり活動に参加している市民の割合は上がっていくのではないかと。	H27年の佐賀大学のゼミの活動から小城市でフットバスの活動が始まり、H30年に市民活動団体「小城フットバスクラブ」が立ち上がり活動されています。市民の皆さんによる活動が広がっていくことが協働によるまちづくりに繋がっていくものと考えておりますので、引き続きまちづくりの担い手となる市民活動団体の育成・支援に努めて参ります。		
62	9-1情報発信の充実	中島委員	若い人が小城のことをあまり知らないと感じる。土地柄的なことをしっかり詳しい方に特別講義を依頼するなど、教育委員会で小さいときからの教育を取りいれるのではないかと。	関係部署と連携し、身近な地域を学習する環境整備に努めていきたいと考えています。	No.63(10/22修正)現在のところ、市として新たな副読本の発行の計画はありませんが、子どもたちにも小城市の魅力を身近に感じることができるよう「おぎまんが」による歴史・人・四季等の紹介を行っています。また、小城市の歴史を学ぶために作成した「小城歴史読本」を活用しながら、関係部署と連携し、身近な地域を学習する環境整備に努めていきたいと考えています。	
63	9-1情報発信の充実	木下副会長	活字で残すという意味では、子どもたち向けの副読本を作成してはどうか。	現在のところ、市としての副読本の発行の計画はありませんが、関係部署と連携し、身近な地域を学習する環境整備に努めていきたいと考えています。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
64	9-1情報発信の充実、9-2観光の振興、3-2歴史・文化の継承と文化財の保存	村岡委員	情報発信という点では、「自分が知りたい市に関する情報を容易に知ることができる」という割合の実績は増えている。インターネット、おぎまんがなど、メディアを使った成果だが、小城町史はS49以来作られていない。市史を早く作る必要がある。常に歴史を意識した情報を活字で残すことが重要。伝統行事の中で昔は歴史や文化を教えていたが、難しくなってきたので、小城市史を小中学校で教えるといいのではないか。	市史の編纂は、現在のところ具体的な予定はありません。歴史教育については、平成23年度に「小城歴史読本」を作成し、各学校図書館に架蔵していただいています。関係部署と連携し、身近な地域を学習する環境整備に努めていきたいと考えています。		
65	9-1情報発信の充実、9-2観光の振興	村岡委員	観光地の紹介の仕方を変えることが必要。城下町だがPRができていないのは、地域の人が知らないからだと思う。「小城市の魅力を伝えた市民の割合」が3人に1人もいないというのではPRにならない。地元の人の口コミが一番正確で効果がある。インターネットもあるが、情報発信の元になる基本情報を活字で作る必要がある。	小城市の魅力は、城下町他数多くの観光資源が存在していることから、今ある資源を活用した総合的・戦略的なPRを行ってまいります。既存の観光資源を磨き上げ、周遊できるような仕組みを構築してまいります。		
66	9-1情報発信の充実	中島委員	市のPRという点で、個人個人が民間で書物を作るのか、行政がバックアップする制度があるのか。民間だけに任せるのか。	歴史に関する個人出版に関しては、補助制度等はありません。ただし、公益上必要がある場合は、行政からの支援・連携を考えていきます。		
67	9-1情報発信の充実	木下副会長	以前はFMでの「I LOVE 小城」という番組があったが、広報面でラジオなどのマスコミを活用したPRについてはどう考えているか。	以前は補助事業でラジオでの広報番組に取り組んでいたが、財政状況から永続的に行うのは厳しいため、現在はSNS等を活用し、情報発信を行っています。今後は、多様な情報発信手段の充実を図っていきたいと考えています。		
68	9-1情報発信の充実	吉岡会長	ネットでの情報発信も大事だが、紙媒体しか情報を得られない人いるので、どちらも大事にしてほしい。	情報の受け手の立場を考え、分かりやすい情報を提供できるよう努めていきます。		
69	9-1情報発信の充実、9-2観光の振興	吉岡会長	対象は「市外に住む人」になっているが、「市民」も併せて対象にして、そこから始めるのもいいのではないか。	市民にも地域の観光資源を再認識していただくために、情報発信の充実においてしっかりと魅力を届けていきたいと思います。観光の振興においては、市外の方々に分かりやすい観光情報の発信に努めてまいります。		
70	9-2観光の振興	木下副会長	小城市の城下町のPRが不足しているのではないか。スマートインターもあるので、道の駅を小城町の中心に作って、羊羹や鯉料理もそこで楽しめるようにしてはどうか。	小城市の魅力は、城下町他数多くの観光資源が存在していることから、今ある資源を活用した総合的・戦略的なPRを行ってまいります。既存の観光資源を磨き上げ、周遊できるような仕組みを構築してまいります。		
71	9-2観光の振興	木下副会長	小城公園の川の水が濁っていたり、参道の周りに草が茂っていたりしている。観光地の小城公園など、きれいに管理してほしい。	引き続き観光施設の適切な管理に努めてまいります。		

No.	項目	委員	審議会での意見	市の対応	計画書(案)修正前	計画書(案)修正後
72	10-1防災・減災体制の充実	吉岡会長	「防災を日頃から意識している市民の割合」「普段から防災・減災の取り組みをしている市民の割合」の令和2年度実績がかなり上がっているが、その要因は災害の発生で自然と上がったのか、市の働きかけがあって上がったのか。	令和元年の8月豪雨や、大規模災害が頻発していること、それに伴ってマスコミでもかなり防災・減災を取り上げられたことで意識も上がったのではないかと認識しています。また、市では、防災支援員を配置して、積極的に地域に向いての出前講座を開催しており、市民の防災意識の向上につながっていると感じています。		
73	10-1防災・減災体制の充実	木下副会長	地区の中で区長が水害で避難を呼びかける場合、雨がやんだりして判断が非常に難しい。	市も避難指示を出す立場として、本当に先のことは分からないので、命を守る行動としては空振りを恐れず、積極的に地区の方にも避難の呼びかけを行っていただきたいと考えています。		
74	10-1防災・減災体制の充実	下村委員	小城市内でも人的な火災が増えている。ごみの焼却や草の焼却が増えているが、まだこういう乾燥している中では注意をしていただきたい。	火災予防運動期間には、防災行政無線で市民に対して注意喚起を行っています。ごみの焼却等については、担当課にて直接注意喚起を行っています。		
75	10-2防犯体制の充実	中島委員	防犯環境の整備からいうと、照明の整備などが何か目標値にあればいいのではないかと。	防犯灯は要望により設置しているものであるため、目標値の設定は難しいと考えています。地区の環境等の違いがあるため、必要数の把握は困難です。		
76	10-2防犯体制の充実	吉岡会長 中島委員	犯罪の防止を地域を行っていく、地域で犯罪を起こさせないような体制を取るということで、意図に「犯罪を起こさせない」を併記してはどうか。	「起こさない」と「起こさせない」の意図は同義と考えていますので、「起こさない・起こさせない」のように併記します。	意図②犯罪を起こさない	意図②犯罪を起こさない、 <u>起こさせない</u>
77	10-2防犯体制の充実	木下副会長	小城駅に防犯カメラがついて、自転車泥棒が大変減ったと聞いた。防犯カメラの設置はどのように行われているか。	設置については、市の施設管理者が設置する場合と地区・事業者からの要望により防犯協会が一部を補助する場合があります。		